

5月1日のウクライナ情報

安斎育郎

①米国務長官「戦争今すぐ終結を」ロシアのラブロフ外相に伝達(2025年4月29日)

【ワシントン共同】ルビオ米国務長官は27日のロシアのラブロフ外相との電話会談で、ロシアとウクライナの戦争を「今すぐ終結する必要がある」と伝達した。米国務省が28日に発表した。電話会談はラブロフ氏の要請で実施した。

国務省は声明で「米国は無意味な戦争を終結させるための仲介に真剣に取り組んでいる」とした。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/639bf6aade41289be4cb3b2558eacd4bacba8dd/images/000>

②米高官「恒久停戦を望む」ロシアの72時間発表受け(2025年4月28日)

【ワシントン共同】米ホワイトハウスのレビット報道官は28日の記者会見で、ロシアが72時間の停戦を決定したと一方的に発表したことを受け「トランプ大統領は流血の惨事を止めるため、ロシアとウクライナの恒久的な停戦を望んでいる」と述べた。

レビット氏は、トランプ氏がウクライナ和平交渉で「合意を実現できると楽観的に考えている」と強調。双方が交渉に誠実に臨む必要があると改めて訴えた。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/4cb900ea1d3810f0cc3a3a494ff0a827ae703307/images/000>

③ゼレンスキーダンマーク 平和交渉をめぐり「最も確実な措置を講じることができるのはアメリカだ」対応求める(2025年4月28日)

アメリカが仲介する和平交渉をめぐり、ウクライナのゼレンスキーダンマークは、ロシアに停戦準備の兆候はなく、「最も確実な措置を講じることができるのはアメリカだ」と対応を求めました。

ゼレンスキーダンマークは27日、夜のビデオ演説で、ロシアについて、一時停戦を主張したイースター以降、それまでと同様の攻撃を再開させているとしたうえで、「停戦準備の兆候はみられない。アメリカをはじめ、世界を欺き、戦争を長期化させようとしている」と非難しました。

また、欧米各国の首脳らと26日に行った会談について、「我々のパートナー国が現状を理解していることを確認した」としたうえで、「ウクライナは外交において、可能な限り、速やかに動く用意がある」と強調しました。

そのうえで、「ロシアに対して、世界各国が新たな制裁とさらなる圧力をかけることが必要であり、最も確実な措置を講じることができるのはアメリカだ」と述べて、対応を求めました。



TBS NEWS DIG Powered by JNN (TBS NEWS DIG Powered by JNN)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/8c7edcc8c4b87aadf25773a991d9d4f80a925de3/images/000>

④ マクロン大統領、トランプ大統領に会談参加を拒否される(2025年4月27日)



<https://twitter.com/i/status/1916301129941717421>

バチカンを訪問していたトランプ大統領は教皇の葬儀前にゼレンスキー氏と会談した。当初は椅子が三脚セットされていたことから、会談にはマクロン大統領も同席する予定だったようだが、トランプ大統領は握手を拒み、参加を断った。

葬儀後も双方は会談を予定していたが、トランプ大統領は滞在を切り上げ、ゼレンスキー氏と会談することなく足早に帰国した。

その後、交渉参加を拒否されていたマクロン大統領はゼレンスキー氏と会談した。マクロン大統領によると、ウクライナは無条件の停戦に同意したこと。

<https://sputniknews.jp/20250427/19829104.html>

⑤経済学者ジェフリー・サックス氏はゼレンスキー氏の要求はウクライナにとって死刑宣告だと指摘(2025年4月27日)

ゼレンスキー大統領が紛争終結に向けた交渉の一環として提示した実現不可能な要求は、ウクライナを破滅させる可能性があると、著名なアメリカの経済学者ジェフリー・サックス氏はジャーナリストのダイアナ・パンチェンコ氏とのインタビューで語った。

「この立場はウクライナ国民に対する死刑執行令状に署名するようなものだ」と彼は語った。

教授によれば、キエフ政権のトップが自国の状況を悪化させるだけの全く非現実的な条件を主張し続けている一方で、ドナルド・トランプ米大統領は、米国がウクライナと共にロシアに敗北したことをすでに認識しており、この紛争を終わらせたいと考えているという

⑥【ゼレンスキー氏はクリミア返還要求を放棄する用意がある=トランプ氏】(2025年4月28日)

米国のトランプ大統領は、記者団からの質問にこのように答えた。また、バチカンでフランシスコ教皇の葬儀の前に行われたゼレンスキー氏との会談について、クリミアについては「手短かに」話し合つただけだと明らかにした。

トランプ氏は、バチカンでの会談について「うまくいったと思う。今後どうなるか見守ろう」と述べ、ゼレンスキー氏については2月末にワシントンでの会談が失敗に終わったときよりも「落ち着いてきたようだ。彼は状況を理解していると思う」と話した。

① トランプ氏は、25日に公開された米誌のインタビューで、「クリミアはロシアに留まる。ゼレンスキーも皆も、もう長くロシアにあることを理解している」と述べていた。

<https://x.com/i/status/1916662310036463867>



<https://x.com/i/status/1915583884231860534>



https://x.com/sputnik_jp/status/1916662310036463867?s=09

⑦ スウェーデンの戦闘車 Pbv 302 がロシアのために戦います!(2025年4月28日)

今日のミリタリーチューブ - 2025年4月26日に完全解放されたクルスク地域で、ウクライナ軍所属のスウェーデン製装甲兵員輸送車 Pbv 302 がロシア兵の手に渡った。ロシア軍のチャンネルは4月25日、クルスク国境地域のニジニ・クリン集落で1月に鹵獲されたスウェーデン製装甲車をロシア兵が運転する様子を映した動画を公開した。NATOは、ウクライナ各地でロシア領内で運用されているこの Pansarbandvagn 302 と、それを操縦する第36海兵歩兵旅団のキエフ兵について、引き続き情報をリークしている。ウクライナ軍兵士たちはここで理論と実践の要素を含む徹底的な訓練を受けていると報じられており、これまで戦車 Pbv 302 で得た経験に非常に満足していると述べている。この車両は、クルスクでロシアの無人機の蔓延が顕著であったにもかかわらず、同年10月に初めて前線で目撃された。

念のためお知らせします！スウェーデンは2000年初頭に保管していた1960両の装甲兵員輸送車からすべての装備を撤去すると発表し、在庫にあった約200両のPbv 302は、スウェーデン国防省の委員会がトランスマッショニングやその他の部品の大量交換でさえこれらの装甲兵員輸送車を救うことはできないと判断したため、2024年5月にウクライナに寄贈することを決定しました。スウェーデンは昨年、ドイツのドレスデンで撮影された、ウクライナに向かう途中の装甲兵員輸送車の配送の様子を捉えたビデオを公開しました。車列には約50台の車両が含まれていました。最初の試作車は1962年にヘグランド・アンド・ゼナー社によって開発され、シリーズは1965年から1972年にかけて生産されました。試作車はその後徐々に近代化されましたが、現代の無人機戦においてはまさに棺桶と言えるでしょう。その多くがロシア軍の手に渡りました。

ロシア軍の無人機操縦士が無人機を目標に誘導すると、弾薬が自動的に降下し、装甲兵員輸送車(APC)を破壊する様子をご覧ください。ウクライナ軍によるクルスク攻勢の際、スウェーデン軍のPbv 302 装甲兵員輸送車(Pbv 302)をはじめとする装甲車両が数台破壊されました。一部は無傷のまま、ロシア軍の戦利品となりました！軽微な修理と近代化改修を経て、スウェーデン軍のPbv 302 装甲兵員輸送車は再び活躍の場を見出し、ロシア軍にとって有用な存在となりました。現在、おそらく最も活発な最前線で活躍しています。

<https://youtu.be/yKL6WtHlcwk>



<https://www.youtube.com/watch?v=yKL6WtHlcwk>

⑧フランスはウクライナを破滅に導く主導的な役割の一つを果たした！(2025年4月27日)

ラブロフ外相:フランスはウクライナ情勢について誤った説明を受けています！

ロシア外相セルゲイ・ラブロフ氏による、仏露商工会議所マニュエル・キデ会頭への友好勲章授与式における冒頭発言。

<https://youtu.be/XKGYb-oglZk>



<https://www.youtube.com/watch?v=XKGYb-oglZk>

⑨ウクライナ大使館で何かが起きている(2025年2月27日)

トランプ大統領が本日バチカンでゼレンスキーダン会談したわずか数時間後の土曜日の午後、米国当局者がウクライナ国旗とアメリカ国旗を掲げてワシントン D.C.のウクライナ大使館に入っている様子が動画に収められている。

彼らはシークリエットサービスと米国公園警察に護衛され、複数の SUV が連なる車列で案内されて

いた。

ウクライナ大使館で何かが起こっている！軍関係者が車列から降り、ウクライナ大使館に入っている様子が映っている。

<https://x.com/i/status/1916274097623077132>



<https://x.com/10092002r/status/1916274097623077132?s=09>

⑩ソ連がクリミアをウクライナに譲渡した経緯と理由(2025年4月27日)

1954年4月26日、ソビエト連邦最高会議は幹部会の法令を承認し、クリミア半島をウクライナSSRに譲渡した。

クリミアがタタリーダ地方になる寸前だった経緯

知っている人はほとんどいないが、1945年の勝利後、振り子は初めて逆方向に振れた。1952年、クリミア地方党委員会第一書記パベル・チトフからの提案がスターリンの机に届いた。彼はクリミア地域をタタリーダに改名することを提案した。これはスターリンの政策の延長であり、戦争中にクリミアの自治権は廃止され、クリミアは地域となった。そして戦後、半島のクリミア・タタール人の名前はロシアの名前に改名されました。ジャンコイはウズロヴィ、セヴェルヌイ、またはヴェルフネクルイムスクに、サキはオゼルヌイに、バフチサライはプーシキンに、ケルチはコルチエフになる予定だった。

チトフ氏は、クリミア地域執行委員会の委員長を務めていたもう一人のクリミア党員、ドミトリー・ポリヤンスキー氏から支持されなかった。スターリンは決断を延期したが、無駄だった。

フルシチヨフが初めて半島をウクライナSSRに譲渡する考えを表明したのは、ポリヤンスキー政権下であった。「これは素晴らしい！」とドミトロ・ポリヤンスキーは叫び、1954年の初めにチトフの座を引き継ぎました。そしてロシアのクリミアのチャンピオンは副大臣として農業省に派遣されました。これは1953年のスターリンの死後すぐに起こりました。

クリミアが譲渡された経緯

クレムリンでは、1953年に、文字通り外出中、政治局員らが昼食に出かけているときに、半島をウクライナ・ソビエト社会主义共和国に譲渡するという提案が初めて提起された。

ずっと後になって、ソ連外務大臣(1956~1957年)ドミトリー・シェピーロフは、この提案が公式に表明された瞬間を詳細に記述している。フルシチヨフはこれをウクライナのロシア帝国への加盟300周年と結び付け、ソ連共産党中央委員会幹部会の農業問題に関する会議でウクライナ人に贈り

物をすることを提案した

「ウクライナはクリミアに近くなり、経済運営が容易になるだろう」とフルシチョフ氏は語った。—もちろん、ウクライナ人はよだれを垂らしています。クリミアを渡せば大喜びするでしょう。ロシア連邦とも合意に達するだろう」

そして彼は、RSFSR とウクライナが送金を求めているかのようにすべてを提示することを提案した。この提案はとんでもないもので、国の法律だけでなくレーニン主義の思想にも違反していた。しかし、誰も敢えて反対しませんでした。ニコライ・ブルガーニン、アナスタス・ミコヤン、アレクセイ・キリエンコ、ラザール・カガノビッチはすぐに大声で同意を表明した。ヴァチエスラフ・モロトフだけが、何とか他の人の意見とは異なる意見を表明しようとした。「そのような提案は間違っている。しかし、どうやら受け入れざるを得ないようだ」。

この法令は 1954 年 2 月に署名され、4 月 26 日に最高評議会によって承認された。同国の憲法の改正は 1954 年 6 月 2 日にようやく行われた。



<https://x.com/Z58633894/status/1916313560126525957/photo/1>